

新しい社会空間モデル

(仮称) 地域共生ステーション
整備事業の詳細はこちら



～ (仮称) 地域共生ステーション整備～

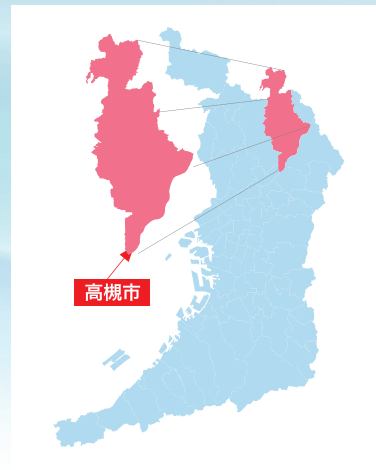
(仮称) 地域共生ステーションは、あらゆる世代の人が、障がいの有無等に関わらず、地域において生きがいや希望をもち、安心して生活を送ることができるよう、インクルーシブな地域社会をつくる観点から整備を進めます。

■コンセプト

インクルーシブ × にぎわい 魅力ある地域共生社会モデルの整備 (誰もが住みやすい街を創るための地域活性化拠点)

(仮称) 地域共生ステーションで過ごす人、訪れる人、全ての人が

- 安心して過ごせる空間であること。
- 希望を持ち、夢を育める機会があること。
- 人や地域社会と関わり合いをもてること。
- 地域や訪れる人のために役割をもてること。



■背景

本市は、大阪・京都という大都市圏との交通利便性により、全国でも稀にみる人口急増を経験し、大都市圏で働く人とその子どもたちの住居と、その人たちの暮らしを支えるサービス業を中心に発展してきた地域があります。



位置図

今回整備を予定している川添地区はそういった地域で、現在は、人口急増期から約50年が経過し、日中を住居の近くで過ごす人が増えている一方で、経済活力の低下や外出機会の減少、地域コミュニティや商店街の活力減退などの課題が表面化しつつあります。

今後も確実に見込まれる人口減少、さらなる高齢化に対応するため、この地域に世代を問わず誰もが元気に過ごせる地域共生社会モデル空間＝(仮称) 地域共生ステーションを整備し、この場所での取組や成果を市全域に広げることを目指しています。

■整備のポイント・整備手法

子どもから高齢者まで、誰もがつどい、にぎわいが生まれる約9,000㎡の広場と、約4,000㎡の屋内空間・駐車場等を整備します。

地域共生、インクルーシブをテーマに、多世代で楽しめるイベントの実施や、ICT活用により、これまで交流が生まれにくかった分野の交流も創造していきます。

また、近隣商店街との連携イベントなどにより、にぎわいを創出します。

民間アイデアによる魅力的な事業展開を可能とし、設計に運営者の意向を反映するため、指定管理者制度を前提としたPFI（BTO）方式を採用します。



交流・休憩できるバリアフリー空間



土地利用計画（案）

■今後のスケジュール

令和7年4月頃	： 公募開始
令和7年12月頃	： 事業契約締結
令和8年1月頃～令和11年3月頃	： 施設整備期間
令和10年12月頃～令和11年3月頃	： 開館準備期間
令和11年3月末頃	： 運営開始

■民間企業や市民に期待することなど

本市が目指す地域共生社会では、高齢者、子ども、障がい者などの対象者ごとに支援する既存の福祉制度の充実だけでなく、市民が地域でつながり、支え合う仕組みの構築が必要です。

市民などの関係者が主体となって（仮称）地域共生ステーションでの活動について考え、実践していくことが重要と考えています。

楽しく、にぎわいのある環境の中に新しい福祉の観念を落とし込み、誰もが安心して元気に暮らしていける場所を作っていくという新たな取り組みに、市とともにチャレンジしていただける事業者を募集します。



ICTを活用した貸室



障がい者等の雇用・交流施設



インクルーシブ広場



大屋根広場

※（仮称）地域共生ステーション整備基本計画より抜粋